大念佛

No.71
発行／融通念佛宗
総本山 大念佛寺
大阪市平野区平野上町1-7-26
TEL.06-6791-0026

題字：融通念佛宗 管長 倍巌良舜

融通念佛宗管長

倍巌良舜

平成二十七年の新春おめでとうございます。檀信徒の皆様にはつつがなくお越年いただいたことと御慶び申し上げます。

皆様に物心両面にわたりお世話になっております「開宗九百年記念・大通上人三百回御遠忌」大法要も愈々目睫の間に迫って参りました。

融通念佛宗は平安時代の末頃、良忍上人（聖応大師）によって開かれました。それ以前には南都仏教といわれる法相宗、華厳宗、律宗や平安時代に入り天台宗と真言宗が伝来しています。何れの宗派も日本の伝統仏教の基礎となる立派な宗派でありますが、どちらかというと貴族的な面に比重がかかり、鎮護国家、天下泰平を祈願する方に力がかかっていました。

良忍上人は庶民の心に安らぎを与えることが最も大事であると考えられ、それには融通念仏という自分の唱えた念仏が多くの人の心に安らぎを与え、人々の唱えた念仏は自分の心にかえってくるという融通念仏の弘通に力をそそがれたのです。これによって仏教教化の重点が国家や貴族より庶民の方へ大きく舵を切っていくことになります。

大通上人は江戸時代、元禄期の方で当時融通念佛宗は疲弊を極め教団としての存立も危機にさらされていました。当時宗門を復興するには幕府の承認が必要でした。五代将軍綱吉から宗門復興してよろしいという許可を得なければなりません。大通上人は再三にわたり江戸へ行き、寺社奉行と交渉されたようです。当時「大坂～江戸」間約百四十里、片道二十日近くかかる旅程で、これを数回こなされた大通上人の御苦労は大変なものであります。

更に上人は『融通円門章』『融通念佛信解章』を著して教学を確立され、本山大念佛寺の伽藍を整備して、本山と末寺の関係を強化し、大事な法要を統制あるものとして復活されました。今日、融通念佛宗が伝統仏教の一翼をにない、相応の活動をなし得ているのは大通上人の超人的な御尽力の賜であります。

本年五月一日より七日まで「開宗九百年記念・大通上人三百回御遠忌」が厳修されます。これを機に融通念佛宗が更に大きく発展し、平和世界と安心世界実現に寄与致さねばならないと決意致しております。

檀信徒の皆様方のより一層の御支援、御協力をお願い申し上げます。

開祖良忍上人の念仏のお心

融通念佛宗宗務総長　吉村暲英

●ご誕生と出家

平成二十七年は、開宗九百年記念　大通上人三百回御遠忌法要が五月一日から一週間、総本山に於て勤修されます。

融通念佛宗は平安時代の後期、永久五年（一一一七）、良忍上人（聖應大師）によって開かれました。

良忍上人は永久四年（一〇七二）、尾州知多郡富田荘（現、東海市富木島町）にご誕生。父はその地の領主、藤原秦氏兵曹道武公といい、母は熱田神宮大宮司の息女でした。十二歳のとき比叡山で剃髪得度し、天台の学問をはじめ、念仏、声明等の研鑽を積み、二十三歳で大原に隠棲し、いよいよ修行に磨きがかかりました。数年後、故郷の両親は上人の徳行に感動し、剃髪の身となって、富田の地に草庵を構え、名を円阿弥、念称比丘尼と名乗り、念仏三昧の日々を送られました。

永久五年（一一一七）、四十六歳の五月十五日、念仏の修行中、阿弥陀如来の示現を受け、融通念仏を唱導されました。宗門ではこの日を開宗記念日としています。正確には開宗九百年は平成二十九年（二〇一七）になるわけですが、大通上人（享保元年・一七一六寂）の三百回忌に合わせて、二年前倒しに勤修しているのです。

●一即一切

良忍上人の念仏はどのようなものであったでしょうか。それを窺う第一の手がかりは、弥陀の妙偈、あるいは仏勅といわれるもので、示現の際、阿弥陀如来が直接、良忍上人に告げられたものです。

「融通念仏は一人の行をもて衆人の行とし、衆人の行をもて一人の行とするが故に、功徳も拡大なり、往生も順次なるべし。一人往生をとげば衆人も往生をとげむことうたがひあるべからず。」『明徳版本、融通念佛縁起』

『融通念佛縁起』二巻は、良忍上人の伝記と、融通念佛の霊験を絵物語にしたもので、正和三年（一三一四）はじめて作製されたもので、諸本ある中で明徳版本はきわめて評価が高く、明徳二年（一三九一）に開版されました。

融通念仏は、一人（自）の念仏と一切の人びと（他）の念仏とが一体となって、自他の区別はなくなり相即相入となる。念仏が相即融通するから、それを称える人もまた相互に融通する。つまり私という個と、他の一切の人とが融け合うのです。

沢山の電燈がそれぞれの光を出し合って、一室を明るく照らし出しているのです。どの電燈がどの部分を照らしているかを区切ることはできません。すべての電燈の光が一つに融け合っているのです。しかし一個の電燈は確実に一室を照らす輝きを出していることに変わりはありません。もし電燈の数を半分に減らせば、部屋の明るさも半減するはずです。

そこに一（自）と一切（他）との関連があります。一は一切を生かし、一切は一を融合して、大きな力となるのです。

●『融通和合』に生きる

人は一人では生きられません。世のすべての人の支えと、あらゆるものの恵みによって生かされているのです。本宗の生活信条を簡潔にいえば「融通和合」の生き方となります。そしてこれを実践し、いつも念頭におくために日々念仏を称えることを勧めるのです。

良忍画像（室町時代）

「融通」とは人と人、人と物、物と物がそれぞれの関係において何らの障礙がなく、互いにとけ合い通じ合っていることをいいます。両者の間に障礙がないというのは「和合」していることで、自らが他を支え生かし、他が自らを包みこんで生かしているのです。

自分と他のすべての人との間に何の障礙もなく、一つの心にとけ合い、自他の隔てがなくなった世界を融通無礙というのです。

世の中に争いと憎しみが絶えることのない現状を見るにつけ、融通無礙の大切さがしみじみと思われます。しかし人間には、我欲我見といわれるように「我」というものがあり、それが相互の融通を妨げるのです。常に自我意識と自己愛が先に立ち、相手の人格の中に自己の人格を投入し、一心同体になることはできないのです。そこに倫理道徳の限界があります。

●念仏の功徳

宗教の世界は人智を超越した大いなるものの中に身心を委ね、それに随順することによって無礙なる世界を現じてゆくのです。

本宗では自他ともに南無阿弥陀仏と称える念仏の行を勧めるのは、そのためなのです。

念仏者は無礙の一道なりといわれるように、南無阿弥陀仏の中には、徹底して自己をみつめ、そこに自己の醜さに涙する世界があるのです。また柔和な心と、他を思いやる慈悲の徳が含まれています。また世間の煩瑣な出来事に惑わされない、ひろびろとした世界がひらけているのです。

そのような念仏の功徳は人種、性別、年齢を越えて、念仏を称える人と人の間に真実の繋がりができます。融通の輪（和）ができるのです。人と人は障礙します。すなわち無礙ではありません。しかし念仏と念仏は、念仏の持つ徳性が相互に融通して一切無礙です。だからそれを称える人と人も無礙なる世界を築くことができると教えるのです。

●念仏の実践

それゆえ本宗では、「早旦の念仏」といって、朝起床して洗面漱口を済ませてすぐ、西方に向かい十遍の念仏を称えることと、「日課念仏」といって一日百遍の念仏を毎日欠かさないことを奨励しています。

早旦の念仏は一日の始まりに、無常の世にきょうも陽の光を仰ぐことのできた喜びと、有形無形のあらゆる恵みに支えられて、今あることに感謝するとともに、きょう一日のささやかな私のはたらきを通じて、世の一切にご恩報謝してゆく心構えを培うために称えます。

日課念仏は、ややもすると怠惰に流されやすい心を精進の方へ向けしめ、憍慢心と我見、偏見を反省し、共生きの中に生かされていることに目覚めるために称えるのです。

●今、ここが極楽

融通念佛宗は、阿弥陀仏に帰依し、思念の対象として念仏を称えることによって、念仏のもつ徳性が相互に作用し、自他ともに一つに融け合い、苦悩の娑婆世界に生きる喜びと幸せを築いていくことを主眼としています。それは人間が本来的にもっている仏と同等の清らかな心の種子が、念仏というよき縁に催されて開花するからです。

念仏を称えて西方の極楽浄土を願うのではなく、今、ここを極楽浄土に転じていくのです。極楽往生は死後に叶うのではなく、この心に目覚めたなら今、ここが極楽であるのです。

京都大原　音無しの滝

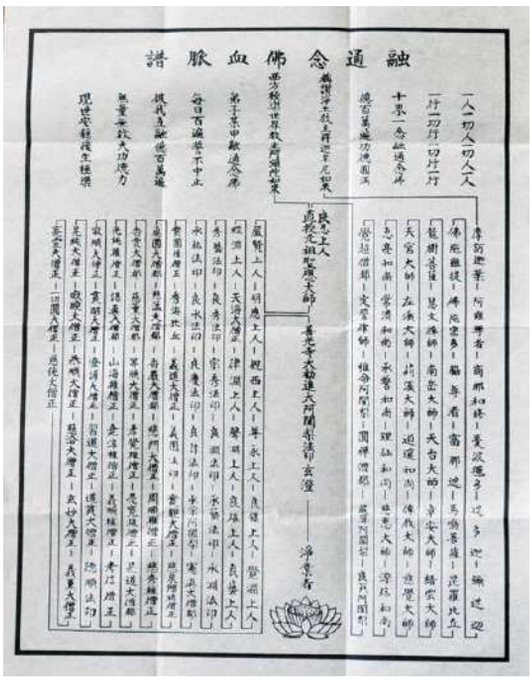
信州善光寺と融通念仏

教学研究所所長　第二教区　念佛寺　浜田全真

良人上人によって創唱された融通念仏は、上人以降、日本全国に伝播しました。今日各地に伝承されている大念仏や六斎念仏などの民俗的念仏、融通念仏縁起や融通念仏血脈譜などがこのことを端的に物語っています。

長野市の北に位置する善光寺には融通念仏縁起が所蔵され、融通念仏血脈譜が信者に授与されています。この血脈譜は一般に「お血脈」ともいわれていますが、説明書には「融通念仏が釈尊から善光寺の大勧進の現住職まで伝わった法系（系図）を書いたもの」とあり、融通念仏はお釈迦さまから伝えられてきたものであると書かれています。

続いて「これを受けることによって、弟子として、融通念仏の奥儀を受けられたこととなり、なお此の御血脈を受ける人は、日課として念仏百遍唱ふべし、大切に仏壇等に保管し、事ある時に極楽浄土へ持って行くことが出来る意義深いお牘であります」とあって、この血脈を受ける人には毎日百遍の念仏を唱えることを課し、そうすれば死後は極楽に往生できると説いています。いわばこの血脈譜は極楽行の切符であるということになります。江戸時代、善光寺の如来さまが出開帳に赴かれた所で多くの参詣者にこの血脈譜が授与され、その盛況ぶりがよく知られていたためか、落語の演題にもなったほどであります。



またこの血脈譜に名前をのせている等順大僧正はさかんに融通念仏を弘められた一人で、天明三年（一七八三）に起きた浅間山の大噴火の折には、被災した多くの人にこの血脈譜を授与し、恐怖におののく人々の心を救ったといわれ、一代の間に道俗あわせて百八十余万人に授与したと云われています。さらに長野県北安曇郡小谷村葛草（くんがさ）蓮（れん）という標高八百メートルの山里に立っていた二メートルあまりほどもある文政十三年（一八三〇）建立の石碑の発願者でもありました。この石碑には「融通大念佛供養」ときざまれています（現在同村神宮寺境内にあり）。そしてこの小谷村には、融通念仏碑が八基と『融通念仏蒐集帖』などが伝えられています。

一方、融通念仏縁起は善光寺大勧進第七十世の本孝法印が入寺の折、天海大僧正から木食但唱に下された「融通念仏弘通朱印状」二通のうちの一通とともに携えてきたものであります。この本孝法印は江戸の養玉院から茨城県真壁町の最勝王寺を経て元禄二年（一六八九）に善光寺に入寺しましたが、最勝王寺では善光寺に入る前の寛文六年（一六六六）に融通大念仏を催していました。

この本孝法印と深い関わりがあったと思われる一人が木食山居であります。山居は十三歳のときに子守りの最中に誤って女児を井戸に落した苦しみから出家を志したと伝えられていますが、元禄七年（一六九四）に善光寺からほど近い小川村の高山寺に入寺しました。その頃、源頼朝が建立したと伝えられている境内の三重塔が永年の風雪で損傷がはげしい有様でありましたので、山居は融通念仏の勧進活動を展開して見事に塔の再建を成しとげました。その「結縁奉加帳」には善光寺周辺の有力者をはじめ、多くの人々が名を連ねています。

このように日本の代表的霊場寺院として知られている信濃の善光寺に融通念仏が伝えられ今日にいたっていることを見てきましたが、最後にもう一つの融通念仏を紹介したいと思います。善光寺に比較的近い信州街道が十石峠を越えて佐久郡に入った所にあります北相木村では今でも死者の枕元で野辺に送る前に次のような念仏が唱えられています。

ゆうずうこうみょうねんぶつ

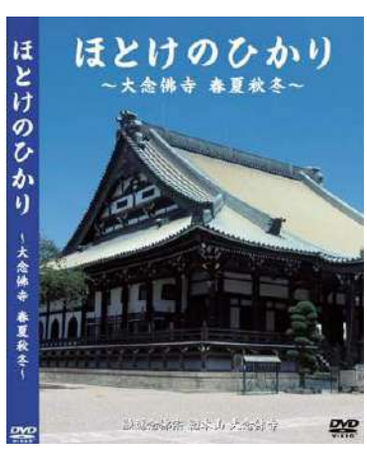
（枕念仏）

こうこくこうみょう
たんせいさまの
おそいのおねんぶつ
わすれたなれば
ゆどののおやまの
こうぼうだいしと
だいにちにょらいの
ごはんのおねんぶつ
一ぺんもうしてちちごの
ごおんをおくるべし
ゆうずうねんぶつ　なむあみだ

御遠忌だより

DVD「ほとけのひかり」好評配布中

もうご覧になられた方も多いかと思いますが、DVD「ほとけのひかり」は、御遠忌を記念して制作いたしました。融通念佛宗の教えや歴史、大念佛寺の年中行事をすこしでも解り易く、また、興味を持って頂けるように構成しております。イラストや絵巻を用いており、小さいお子様でも楽しく観て頂けます。ご家族揃って是非ご覧ください。



除夜法要のご案内

大晦日の夜、凍てつくような、しかしどこか清々しい寒空のもと、参詣の方々がそれぞれの思いを持って来山されます。直ぐに本堂に上られる方、鐘を撞く為に鐘楼に並ばれる方、初めて来られて戸惑う方々。しかしどの方々も素晴らしい笑顔を浮かべて来られます。行く年を見つめ直し、過去を反省し、来る年に新たな夢や願いを持ってこられます。そんな笑顔と希望で溢れた大念佛寺の除夜法要に是非、御参詣下さい。

岩湧山にひびく子供達の念仏
子供念仏会 報告

第一教区　西方寺　安岡良剛

夏休み子供念仏修行体験も今年で八回目となりました。

今回も河内長野市にある、岩湧寺さんにお世話になりました。参加人数は二十五名で、男子が十七名、女子が八名で小学一年生から中学三年生までの幅広い年齢層で修行しました。

七月二十二日、二十三日の一泊二日体験修行

総本山大念佛寺に集合して本堂でお勤めをしたあと、岩湧寺へ移動するバスに乗り込む時に、お母さんと離れるのが嫌で泣いているお子さんがいましたが、全員バスに乗り出発すると泣いていたお子さんにも笑顔が戻り岩湧寺に無事到着しました。

到着してまず班分けをして、はしゃいでいる子供たちを本堂へ連れていき開講挨拶、念珠経本授与、袈裟貸し出しをしましたが、流石に我慢できずにわいわいがやがやとうるさくなってきた子供たちを厳しく叱り、諸注意、プログラム説明そして勤行の説明をし、いよいよ念仏修行が始まりました。

緊張しながらのお念仏だった子供たちも、五分が過ぎ十分が過ぎ段々と二十五人のお念仏が一つになり始めました。子供たちの感想文で一番辛かったという十五礼拝です。十五礼拝は五体投地を十五回繰り返すのですが、子供たちと一緒に私たちも同じ回数をし、実際は百礼拝ぐらいしました。みんなの心が一つになるまで続け、へとへとになった勤行の後は、お世話になるお寺の掃除です。その後お風呂に交代で入る間に写経、そして般若心経の練習です。お風呂のあとは、食時作法をして、食事をいただける有難さと感謝の気持ちを思い静かに夕食をとります。体をいっぱい動かしたあとで、大勢で食事をすると食も進み、みんなおかわりをしていました。日が暮れてから本堂の外でムササビ観察をしました。残念ながら今年はムササビを見れませんでしたが、子供たちは「ムササビが見えた」と言っていたので大人にはみえないものがきっと子供たちには見えたのでしょう。

翌日は早朝からお勤めをして朝食をとり、ラジオ体操をした後岩湧山へ登山しました。残念ながら数名は中腹で下山しましたが、残りのみんなは元気に山頂までのぼる事ができました。一足早く下山した子供たちは掃除をしました。今年は絵手紙の先生が参加して頂いて絵手紙講座を実施しました。子供たちに「何が書きたい」と尋ねると「お父さん、お母さんに感謝の絵手紙が書きたい」と言ったそうです。親御さんへの手紙と修行体験の感想を書いてもらい、お世話になったお寺をきれいに掃除をし岩湧寺での最後の勤行をして総本山へ帰路につきました。本山へ到着後、今年度の子供体験修行参加いただいたお子様のお母さんからの感想を紹介させていただきます。

最後の勤行をする姿を親御さんに見てもらいました。

後日、子供たちの感想文を読ませて頂き、「最初は行くのが嫌だったけど沢山友達ができてうれしかった。」「山登りしんどかったけど上まで登ったら気持ちよかった。」「十五礼拝はしんどかったけど頑張れた」などうれしい感想が私たちの励みになっております。

怒ったり泣いたりしたわずか一泊二日の修行体験ですが、大きくなったときの糧になってもらえると信じております。

「子供念仏修行に参加させていただいて」

娘が今年もお世話になり、ありがとうございます。

一年生の夏休みから毎年参加させて頂いています。

初めての岩湧山の山登りで山頂まで登れた事や、親元離れての念仏修行をやり遂げたという事が自身になり、本当にいい顔をして帰ってきてくれたことを覚えています。

先生方に、「お母さん、○○ちゃん、本当に頑張ってましたよ！一年生ではたった一人、山頂まで登れたんですよ。」とご報告いただいた時は、わが子がそこまで頑張れるなんて思っていなかったので、いい意味で裏切られました。

後で話を聞くと、「山頂まで登ったら、どんな景色が見られるんやろう。」と思ったら、しんどかったけど登りたくなったそうです。

そんな娘ももう四年生なのですが、毎年ここで出来たお友達と「また来年も行こうね。」とお別れする姿をみる時に、「今回も楽しかったんだなぁ」と、嬉しくなります。

解散前の最後の勤行で立ったり座ったり、きちんとできている子供たちを見て、先生方が、この二日間、心から子供たちと関わってくださっていたのだと感じました。

山登りやお作法だけでなく、いろんなことを教えて頂いているようで、例えば、「一番近いご先祖さまって、誰か知っている。」「お父さんとお母さんやねんて。」と娘が私に教えてくれました。よく考えれば当たり前なのですが、そんな風に考えたこともなかったですし、他にも親の私が「へえ～。」と思うようなことを教えてくれました。

なかなか普通ではできない貴重な経験や、先生方がお坊さんだからこその他ではない学びの機会も頂き、子供念仏修行に参加させて頂いて、本当に感謝しております。

また来年、参加できるのを楽しみにしております。

ありがとうございました。

大念佛寺 年中行事ご案内（一月～七月）

◎一月一日(木・祝)　午前五時
修正会
国家安泰・五穀豊穣・万民豊楽を祈願して法要が修されます。

◎一月十六日(金)　午前十一時
融通念仏会
ご一緒にお念仏を称えましょう。

◎一月十六日(金)　午後一時
百万遍会(大数珠くり)
外陣いっぱいに張りめぐらされた数珠を、お念仏の声もろともに繰ります。管長猊下から身体堅固のお加持が受けられます。

◎一月三日(火)　午前九時三十分
寒行
本山僧侶が平野の町を鉦を打ち鳴らしながら托鉢します。

毘沙門天護摩供　午前十時
大般若転読　午後二時

◎二月十六日(木)　午後一時
元祖聖応大師 御忌法要

◎二月二十七日(金)～三月五日(木)
午後一時
保管霊骨追善法要

◎三月二日(月)　午前七時三十分
河内御回在御出光

◎三月五日(木)　午後一時
再興大通上人 御忌法要

◎三月三十一日(火)　午後一時三十分
写経奉納供養・筆供養

◎五月一日(金)～七日(木)
開宗九百年記念
大通上人三百回御遠忌　大法要

◎五月十六日(土)　午前十一時
融通念仏会

◎五月十六日(土)　午後一時
百万遍会(大数珠くり)

◎五月二十二日(金)
東照大権現忌

◎五月二十九日(金)　午後三時頃
河内御回在御帰院

◎七月七日(火)　午後一時
中祖法明上人 御忌法要

◎七月二十日(月)
鳥羽上皇忌

■毎月第二水曜日
午後二時～四時三十分
大念佛寺仏教講座

■毎月二十六日　午後一時三十分
定例布教

★写経のご案内
毎月二十六日、午前九時三十分より午後三時まで、白雲閣にて写経（一巻千円）を行っております。

★納骨のご案内
本堂に於いて、午前九時三十分より午後四時まで年中無休で宗派は問わず納骨を受け付けています。

●日程については、変更になる時もございます。

●お問い合わせ
大念佛寺宗務所
☎〇六―六七九一―〇〇二六

話せば心も軽くなる　大阪仏教テレホン相談室

仏事相談、信仰相談、その他あらゆる人生相談を十宗派の僧侶がお受けします。

月曜日…融通念佛宗・浄土宗
（月曜日～金曜日　一月十一日～十二月二十四日（八月休）

でんわ　〇六（六二四五）五一一〇　午後二時～五時迄

謹賀新年

融通念佛宗総本山　大念佛寺

法主	倍巌　良舜
管長	暐英
宗務総長	吉村　慈光
教学部長	中江　眞澄
庶務部長	岡田
財務部長	北川　全宏